

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	130606		あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。					
事務事業名	要援護高齢者日常生活用具給付事業			担当部局・課	健康福祉部 高年福祉課			
事業内容	電磁調理器、火災警報機、自動消火器、電動歯ブラシ、血圧計を給付し、日常生活の便宜を図る。			事業開始(予定)年度				
				平成12年度				
				事業終了(予定)年度				
			—					
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現					
		項目	きめ細かな地域福祉の推進					
		施策	高齢者の生活支援					
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。							
事業の目的	要援護高齢者およびひとり暮らし高齢者に対し、日常生活用具を給付し、日常生活の便宜を図り、高齢者およびその介護家族の福祉の増進を図る。			予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 民生費 (項) 老人福祉費 (事項) 地域福祉対策費 (目) 老人福祉総務費			
事業費等の概算	平成17年度(決算)			平成18年度(予算)				
	事業費	278千円	財源内訳		事業費	385千円	財源内訳	
			国・県補助金等	208千円			国・県補助金等	289千円
			市 債	—			市 債	—
			その他(使用料等)	—			その他(使用料等)	—
			一般財源(市税等)	70千円			一般財源(市税等)	96千円
	投入人員	0.10人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		投入人員	0.10人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)	
	人件費	857千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。		人件費	857千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。	
	経費合計	1,135千円		経費合計	1,242千円			
活動指標	指標名(単位)	給付件数（件）			計画と実績	年度 区分	H17年度	H18年度
	意味・算式等	給付件数				計画値	8	20
						実績値	13	

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。